

旧小樽地方貯金局竣工 70 年記念特別展

**通信・郵政建築展** —源流と発展—

小樽文学館・美術館（旧小樽地方貯金局）は昭和27年（1952）竣工で今年70周年を迎えますが、戦後の混乱期を経て通信・郵政建築の復興を実現した歴史的建築です。戦前の逓信省営繕課、その後裔であり昭和24年（1949）の2省分離後の郵政省建築部は、日本の公共建築を牽引してきました。吉田鉄郎、山田守、そして小樽地方貯金局設計者、小坂秀雄らが代表的建築家です。彼らがめざした近代建築は合理主義・機能主義・そして世界で通用する国際主義を共通の理念としていました。後年にはその発展形として、日本の伝統的建築を昇華した「庇の建築」が生み出されます。この小樽地方貯金局、そして小樽郵便局庁舎を含め、全国の代表的通信・郵政建築の歴史的意義をふり返り、建築家たちが追求した「公共の場のかたち」について考える特別展です。



京都郵便電信局（現・中京郵便局）1902



京都中央電話局西陣分局 1921



東京中央電信局 1925



大阪東郵便局 1931



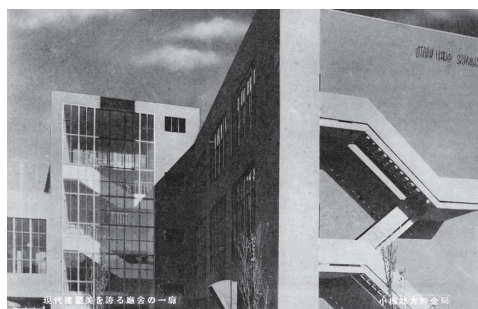
東京中央郵便局 1931



大阪中央郵便局 1939



東京通信病院 1937



小樽地方貯金局 1952



東京空港郵便局 1955



外務省庁舎 1960



通信総合博物館 1964



郵政省本省 1969



札幌中央郵便局 1985

